

## KACHIP FATIMA カチプファティマ



### <学術名>

*labisia pothoina*

### <マレー名>

kacip fatimah (カチプファティマ)

### <ニックネーム>

・ファティマ女史のハサミ

### <飲まれ方>

- ・女性のバイタリティー
- ・女性の引き締め
- ・産後のケア、引き締め
- ・子宮・リウマチ
- ・生理痛

### カチプファティマ

(学名 *Labisia pothoina* / *pumila*)

この植物は一部の地域でカチプファティマとして知られ、マレーシアおよびボルネオの熱帯雨林で見られる小さなハーブです。マレーシア全体で利用される最も有名なハーブの一種で、女性の健康に関する効能があり、産後の強壮薬として利用されています。伝統的にこのハーブは弛緩した子宮や膣を引き締めると考えられ、そのため出産後に非常に需要の多い治療薬となっています。月経痛をやわらげる場合にも利用されています。

### References

1. Yoshida, et al, Tannins and related polyphenols of melastomataceous plants. Three new complex tannins from *Melastoma malabathricum* L. Chem Pharm Bul. 1992
  2. Mohandoss S., et al, Flavonoids from *Melastoma malabathricum*. Fitoterapia. 64.1993,
  3. Burkill, Economic Products of the Malay Peninsula. 1993
  4. Hong-Yen Hsu et al, Oriental Materia Medica. 163 Oriental Healing Arts Institute
  5. Medicinal Plants of Brunei Darussalam, Dept. of Agriculture 1992
- Muhamad K., Mustafa M, Traditional Malay Medicinal Plants.. Penerbit Fajar Bakti (1994)

### Herbs of Malaysia : Times Editionsより引用

(An introduction to the medicinal, culinary, aromatic and cosmetic use of herbs)

カチップ・ファティマ  
(学名 *Labisia pumila*)

学名 : *Labisia pumila* (Blume) Fern.-Vill.

現地名 : カチップ・ファティマ (Kacip Fatimah)

科名 : ヤブコウジ科

### 分布と生育

カチップ・ファティマ (学名 *Labisia pumila*) はインドシナ半島、マレーシア全域、スマトラ島、ジャワ島、ボルネオ島で見られる。この植物は林床で自生する。湿潤な気候の砂壤土の日陰の土地で、有機物や肥料を大量にすき込むと栽培できる。

### 解説

カチップ・ファティマは根茎をもつ低木の草本である。葉は直立し、濃緑色で楕円の皮針形をしており、先端は先鋭形で基部は狭い。葉柄は短く、やや平板である。若いシュートの色は赤褐色である。

茎はやや木質、暗褐色で、落葉後の葉痕がはっきりと残っている。年数を経た茎の節では、根が生えて土中に伸びてゆく。花房は葉腋につき、スパイク状の長さ6cmほどの円錐花序となる。花はピンクまたは薄いすみれ色で、大きさは約2mmである。果実は球形の液果で、明赤色をしており、長さ約7 mm、直径約5 mmである。

**用途**

マレーシアでカチップ・ファティマは、女性に、特に出産時の女性にとって、最も人気のある伝統薬である。

この植物の煎出液は分娩を促進するはたらきがあり、分娩中の強壮薬として与えられる。葉のペーストにヤシ油を混ぜたものは、乳児の腹部に塗布すると胃の不快感をやわらげるはたらきがある

。膨満感や赤痢の場合には葉の煎出液を飲む。カチップ・ファティマは、リウマチ、淋病、および月経困難症の治療にも利用されている。

